

## 平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

<p>モデル事業名</p>	<p>「文化伝統等地域資源を活用した持続可能な地域の形成」 -万葉の文化と風土に親しみ、ふるさとおこしに活かす紀伊万葉顕彰事業-</p>
<p>対象地域</p>	<p>かつらぎ町ほか</p>
<p>活動概要</p>	<p>少子・高齢化問題は、和歌山県においても例外ではなく、平成19年3月31日現在で65歳人口が約25%と高齢化が進み、郡部を中心に人口が減少している。その大きな要因は、若年層の都会志向と教育・就労環境等による県外流出で、とりわけ、定住できる生業がないことである。このことは、国土の幹線軸からはずれているという地理的な条件や、豊かな自然と歴史的遺産に甘え、新たな経済の発展を生んでこなかったこと及び地域の文化・伝統の教育力の低下に起因するものであると考えられるため、自然環境や歴史的遺産を保護・保全し次世代に継承するためにも、先人の叡智に学び、老若男女が共通する価値観を持って希薄化する郷土意識を涵養し、地域の特性を活かした産業を創生・発信することが重要な課題となっている。</p> <p>紀伊万葉の現地に学び、郷土愛を育み、故郷への愛着心を深め、ふるさとおこしの「住民パワー」を誘発する顕彰事業を展開し、希薄化する郷土意識の涵養と定住できる産業の創生するとともに、日々の生活にある豊かな自然と歴史的文化的遺産を全国に発信し、「人的・物的交流」と「文化交流」を進め、観光立県和歌山の一翼を担うふるさとおこしを行うこと。</p>
<p>今年度の主な取組</p>	<p>① 現地学習会の開催（語り部、郷土研究者と協働） ☆若者の、誇れるふるさとの認識学習（モデル高校の選定）。 ☆歴史風土の連続・変化面の分析で、ふるさとおこしの課題と自然資源の再発見学習。</p> <p>② 万葉故地の総合調査（文化風土及び古代産業調査）（和歌山大学との協働） ☆調査報告・提案書「各万葉故地の現状と課題そして今後のあり方」の作成と提案。 ☆豊かな自然と文化の恵みを活かした具体的むらおこしの提案と実行（例えば、水資源の活用による産業の創生等）</p> <p>③ 万葉文化継承のための、指導者育成講座の開設と現地学習会 ④ 万葉歌朗唱学習会の開催 ⑤ 紀伊万葉ウォークの開催</p>

活動結果	<p>「紀伊万葉」の啓発活動においては、地域の高校での講演、現地学習の活動実施後、参加した高校生が文化祭で展示発表を行うなど、ふるさと意識を育む活動や地域交流に効果があった。また、他の高校・公民館などの教育関係団体から開催の申し出がある等、活動の拡がりをみせている。</p> <p>万葉故地の調査活動においては、地域の現状把握のための資料収集や取組事例の聞き取り調査に着手し和歌山大学などとの人的協働体制が構築できた。</p>
当初予想していなかった効果	<p>地域の抱える課題の問題提起に大学の地域貢献機能が合致し、和歌山大学生涯学習教育研究センター主催の「土曜講座」で紀伊万葉とふるさと再生をテーマとした講座を主体的に実施することになった。</p> <p>紀伊万葉を活かし地域を再生するため、地域の現状把握調査をつうじて、体験交流・高付加価値農産品の生産等の実践団体・グループ（観光組合、農園等）とのネットワークが構築され、農業を通じたコミュニティ創生活動が期待される。</p>
実施状況(写真)	<div data-bbox="719 904 1161 1218" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="678 1227 1241 1267">【写真】高校生向け現地学習会の開催</p>
応募団体名	紀伊万葉ネットワーク
リンク	
部局／担当者名	事務局長 木村哲也
連絡先	TEL 0736-22-2953 FAX
推薦市町村名	和歌山県かつらぎ町